
















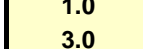

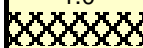
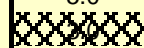


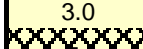

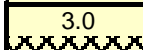
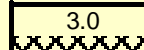




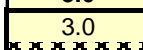
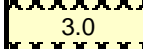
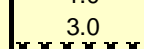









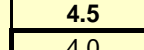

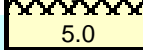
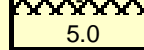


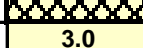

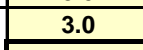














CASBEE-広島 (2010年ver.1)
クラス広島ガ・マーク

 用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境			0.40					3.2
1 音環境		2.6	0.15	2.6	1.00			2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
			-		-			
1.2 遮音	サッシ性能をT2とし、外部からの騒音侵入を抑えるように配慮しました。	3.0	0.40	3.1	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	1.00	5.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能			-	2.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	2.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35	3.7	1.00			3.6
2.1 室温制御	住宅性能省エネ等級4を満たすように配慮しました。	3.0	0.50	3.7	1.00			
2.1.1 室温設定		3.0	0.63	3.0	0.63			
			-		-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.38	5.0	0.38			
2.1.4 ゾーン別制御性			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.3	0.25	3.5	1.00			3.3
3.1 昼光利用	開口部を大きく設け、光が入り込むように配慮しました。	1.8	0.30	4.0	0.50			
3.1.1 昼光率		1.0	0.60	5.0	0.50			
3.1.2 方位別開口			-		0.30			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50			
			-		-			
3.2.2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	-	-			
			-		-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.0	0.25	2.7	1.00			2.7
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63			
4.1.1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
4.2 換気		3.0	0.40	2.3	0.38			
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能			-	1.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
			-		-			
4.3 運用管理			-		-			
4.3.1 CO ₂ の監視			-		-			
4.3.2 喫煙の制御			-		-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.5
1 機能性		2.6	0.40	4.2	1.00			4.0
1.1 機能性・使いやすさ	100Mbitの光インターネットが使える準備をしています。	1.0	0.60	4.0	0.60			
1.1.1 広さ・収納性			-		-			
1.1.2 高度情報通信設備対応			-	4.0	1.00			
1.1.3 バリアフリー計画		1.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性	階高をなるべく大きくし、居住性を高めるようにしました。	5.0	0.40	4.5	0.40			
1.2.1 広さ感・景観			-	4.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース			-		-			
1.2.3 内装計画	インテリアパース、モデルルームを作り、検証している。	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理			-		-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計			-		-			
1.3.2 維持管理用機能の確保			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31		-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80		-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数	柱脚部の錆止めを2回行う。	3.1	0.33		-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		4.0	0.23		-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09		-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15		-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.2	0.19			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	管理室にMDFを設け、複数の光ケーブルを採用する。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			2.8	0.29	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり					3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高をなるべく多くとり、2重床2重天井としました。			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		2.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物の熱負荷抑制		住宅性能の省エネ等級4を満たすように配慮しました。	5.0	0.40			5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		オール電化住宅とし、ダウンライトにLEDを採用しました。	4.9	0.40			4.9
4 効率的運用							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4
1.1	節水	節水器具を採用しました。	4.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00			
2	雑排水再利用システム導入の有無						
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63			3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭に高炉セメントを使用する。	4.0	0.21			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	消火器、フローリング	4.0	0.21			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と縁を切り、軽鉄にて2重壁とする。	4.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.4	0.22			3.4
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.6	0.68			
1	消火剤	ノンフロンの消火器を採用する。	4.0	0.33			
2	断熱材		3.0	0.33			
3	冷媒	エコキュートは自然冷媒(R744)でWGPは1。	4.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		CO2排出量を低減する。	4.2	0.33			4.2
2 地域環境への配慮			2.3	0.33			2.3
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.3	0.25			
1	雨水排水負荷低減		-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3	交通負荷抑制		3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33			2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2	風害、日照障害の抑制		1.6	0.40			
1	風害の抑制		1.0	0.70			
2	日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3	光害の抑制		3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境を阻害しない明かりとする。	4.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			